学校番号	3015

令和３年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	『日本史Ａ　現代からの歴史』（東京書籍）						
副教材等	『新詳日本史』（浜島書店） 『日本史Ａワーク・ノート』（東京書籍）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

次の３点を目標に、１年間一緒に学習しましょう。
・歴史の流れをつかむ力を身につける。
・歴史的事象に、常に「なぜ」の視点を持つ。
・幕末期以降の日本の変化を知り、現在、さらに未来の日本のあり方を考える。

2　学習の到達目標

・資料（遺物、史料）に親しみ、歴史的思考力をやしなう。
・現代の諸課題を、歴史と結びつけ、歴史的観点から考察することができる。
・日本の歴史を、世界の歴史と関連づけながら理解し、国際社会の中で生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	今、現在につながる近現代史に対する関心と課題意識を高め意欲的に追及し、国際社会に生きる日本国民としての責務を果たそうとする。	明治以降の大きな日本の変化を、歴史的観点から考察し、国際社会の変化をふまえて、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現できる。	さまざまな資料の中から有用な情報を選択して、読み取ったりわかりやすく図表にまとめたりする。また、他国から見た日本についての見方にもふれる。	日本の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につける。
評価方法	レポート まとめプリント ノート	定期考査 まとめプリント レポート	定期考査 ワークシート	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４ 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	近代日本の形成	・開国までの歩み ・国際情勢の変化と明治維新 ・明治新政府の諸改革 ・立憲国家の成立	○ ○	 ○ ○ 	 ○ 	○ ○	a １９世紀欧米での、産業革命、資本主義の発達から始まる帝国主義が、アジア、日本にどのような変化をもたらすかを学ぶ。 b 当時の日本の人々が、それぞれの立場から、欧米諸国のやり方をどのように捉え、反発や、共鳴など、さまざまな考え、行動をとったのか、考えてみる。 c 明治新政府の政策が、どの国をモデルとし、どのようにして日本の実態に合うように、当時の為政者たちが、変化させていったのか、具体的な史料を通じて、読み解く。 d 一般の人々（農民、労働者など）は、社会の変化をどのように感じ、受け止めていったのか。また、反発したのか。	定期考査
2学期	東アジア世界の変動と日本	・日清戦争と近代社会の成立 ・日露戦争と帝国日本の形成 ・第一次世界大戦と帝国日本 ・政党政治の時代 軍国日本への道 ・太平洋戦争	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ 	a 清、朝鮮の歴史的関係を少しさかのぼって、復習から学ぶ。 b 政党の発展と、内閣の変遷を関連付けて学ぶ。 d 日清、日露、第一次大戦、第二次大戦という戦争を通じて、日本の領土拡大や、中国侵略へ走った理由を、当時の日本の経済状況や、軍部の台頭とも絡めて探っていく。 c 写真や、映像資料から、日本が、中国や朝鮮、東南アジア諸国に与えてしまった被害について、調べてみる。	まとめプリント 定期考査

3学期	大戦後の国際社会と日本	・現代世界の開幕と日本の戦後改革 ・高度経済成長の時代 ・これからの日本	○ ○	○ ○	 ○	○ ○	a 第２次大戦後の世界、平和を模索する動きの一方で、アメリカとソ連を両極とする東西二つの世界が作られたことを理解する。 b 占領下の日本で、ＧＨＱの指令を受けて進められた、民主化、非軍事化について学ぶ。 c 日本国憲法の制定により、日本国がどのように変化したか、よく考え、この憲法の意義を知る。 d 1960 年代、日本が高度経済成長をむかえられたのはなぜか、国内要因と国際的要因から考える。 d 高度経済成長がもたらした新しい社会問題について調べる。 b 日本の国際社会の中でのこれからの役割と、今の日本が直面している諸問題について考えろ。	定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解